

きらきら、ころん！

るねちゃんは、あめふりがだいきらい。
だって、あめがふると、おそとであそべないんですもの。。。。。。
あしたは、あめがやむかしら、ようちえんでおそとであそべるかしら。
るねちゃんは、とてもしんばいでした。

つぎのひのあさ。

あめはすっかりあがり、おひさまがかおをだしました。

るねちゃんは、いつものようにおかあさんといっしょに、おうちのまえで、ようちえんのばすをまっていた。
よるにたくさんあめがふったので、どうろも、きも、いぬのぼぼのいもも、ぜんぶぬれていました。

「はやくばすがこないかなあ。」

そのとき、はっぱのうえになにかひかるものを見つけました。

「あれ？なんだろう？」

それは、きらきらひかるびーだまのような、
とってもきれいなものでした。

るねちゃんがゆびでさわろうとすると、

びーだまのようなものはころころと、ころがりました。

そして、おひさまのひかりにてらされて、きらきら、ころん！

はっぱのうえで、ぴかぴかにひかっています。

「わあーきれい！これ、なんだろう??」

そのとき、ばすがきました。

「ようちえんからかえってくるまで、だれにもみつかりませんように。」

こころのなかでかみさまにおねがいし、るねちゃんは、ようちえんばすにのりしました。

ようちえんについても、るねちゃんは、あのきらきらひかるもののことをずっとかながえていました。

あれは、びーだま？

それとも、ママのゆびわについているほうせき？

そうだ！きっとほうせきだ！

ようちえんからかえったら、ままだのんで、

ゆびわにしてもらおう。それとも、ガラスのびんに入れて、おへやにかざろうか？

るねちゃんは、みんなでおうたをうたうときも、おひるのおべんとうをたべるときも、そのことであたまがいっぱいでした。

おかえりのじかんになりました。

おうちのまえにばすがとまると、せんせいにあいさつもしないで、いそいでばすからおりました。

「るねちゃん、どうしたの!？」

おかあさんがさげびましたが、るねちゃんはそれどころではありませんでした。

いそいで、はっぱのところに行きました。

「な、ない!!!」

あのほうせきは、どこにもみあたりません。

はっぱのまわりもさがしましたが、どこをさがしてもみつかりません。

「ほ、ほうせきが、ないよお。」

るねちゃんはとてもかなしくなって、

わ〜ん、わ〜んとなきました。

「るねちゃん、どうしたの？」ママがききました。

るねちゃんはママに、あのきらきらひかるほうせきはなしをしました。

するとママが、

「それは しずくっていうのよ。」

「しずく??」

「よる、あめがいっぱいふったでしょう？」

しずくは、あめのつぶからできているのよ。

でも、おひさまがてったから、しずくがきえちゃったのね。」

「きえちゃったのかあ。」

「あのしずくは、きっとあめのようせいが、るねちゃんにとっておくりものをおいていったのね。あめのほうせきだね。」

「あめのほうせきかあ。またほうせきみられる？」

「そうね、またあめがふったらね。」

るねちゃんは、とってもうれしくなりました、

またあめがふったら、あのきらきらしたほうせきがみれるかとおもうと、あめがふるのがまちどおしくなりました。

あめふりも、わるくないなあとするねちゃんはおもいました。